

# 平成30年度 ワークセンター夢の樹就労移行支援 事業実績報告書

## 1 総括

平成30年度は報酬単価の改定に伴う給付費の減額また、利用者数の減少による経営状況悪化への対応に追われる一年であった。経営状況改善のためには利用者の確保が絶対条件であることから、利用者確保を積極的に行い、年度当初7名であった利用者数は9月から徐々に増え、年度末には10名まで増加した。これにより上半期に悪化していた経営状態も下半期にかけて大幅に改善することができた。利用実績から運営費の試算を丁寧に行い、収支の分岐点から、利用者確保の目標数を明確にしたことが効果に繋がったといえる。

一方、事業活動については、これ迄通り安定して成果をあげており、4名が就職することとなった。毎年継続して4名以上の就職を達成している。定着支援については新設の定着支援事業に引き継ぐこととなったが、職員も移行支援と兼務の為、これまでの支援を問題なく継続することができ、離職者ゼロを達成できた。ただし、ここ6年間無かった支給期間満了による退所が1名あり、就労継続支援B型の利用に切り替えることとなった。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労移行支援
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-3
- 4) 運営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 10名
- 6) 利用現員 10名（平成31年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年 4月 1日
- 9) 職員 6名（平成31年3月31日現在）
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）
  - 職業指導員 1名（常勤換算1.0）
  - 生活支援員 2名（常勤換算1.5）
  - 就労支援員 1名

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現。  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。  
安心と希望のもてる生活。

- 4 基本方針 個々に合った活動・実践的訓練  
情報、訓練方法等の共有  
計画的支援（計画→実行→評価→計画の見直し→実行）  
訓練・相談・求職活動の一体的支援

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 就労支援事業
  - 銀の皿メニュー表帳合作業
  - 銀の皿はし・しょうゆセット作り
  - 銀の皿しゃもじセット作り
  - 受注作業（ダイレクトメール等）
- 2) 外部実習
  - 図書館実習
  - 市役所実習

市役所販売  
多摩済生園清掃実習  
有限会社アクアテック  
株式会社インテージテクノスフィア  
日野ハーモニー株式会社  
株式会社ワールドスポーツ  
SOMPO コミュニケーションズ株式会社

3) 企業見学

株式会社キューピーあい  
株式会社ベネッセビジネスメイト

6 日 課

職員打ち合わせ、作業準備	8 : 3 0 ~	9 : 0 0
朝礼、体操、唱和、あいさつ練習	9 : 0 0 ~	9 : 1 5
清掃	9 : 1 5 ~	9 : 3 0
訓練プログラム（作業）	9 : 3 0 ~	1 2 : 0 0
休憩	1 2 : 0 0 ~	1 3 : 0 0
昼礼	1 3 : 0 0 ~	1 3 : 0 5
訓練プログラム	1 3 : 0 5 ~	1 4 : 2 0
休憩	1 4 : 2 0 ~	1 4 : 3 0
訓練プログラム	1 4 : 3 0 ~	1 6 : 2 0
清掃、日誌記入、終礼	1 6 : 2 0 ~	1 7 : 0 0
職員打ち合わせ	1 7 : 0 0 ~	1 7 : 3 0

7 重点課題・目標に対する成果、課題

1) 活動

(1) 就職活動の充実

① 個々の状況に応じた計画的な支援

利用者の個々の強み、苦手なこと、生活状況など詳細なアセスメントを実施し、これに基づき個別の状況に応じた訓練計画や就職までのスケールマップの作成を行う。訓練の進み具合や利用者本人の意向の変化などに臨機応変に対応するため、月に1回以上面談を行い、計画の進捗状況の評価や必要に応じて見直しを行う。

② 丁寧なマッチングによる求職活動

就業前に仕事内容、職場環境、通勤経路、休暇また求められる社員像などの会社の情報を詳しく利用者に伝えるとともに、利用者の状況や希望、留意事項などを会社に伝達し、相互の理解を深めたうえで就業を開始できるようにする。

【成果と課題】

- ① 利用開始時に利用者及び家族と面談を行い、これを基に個別支援計画と就職までのスケールマップの作成を行なった。(新規利用開始8名)また、利用者全員と月1回以上の面談を行い、目標への進捗度合を確認した他、必要に応じて計画の見直しを行った。延べ利用者15名の内13名は順調に訓練の成果が上がりその内4名が就職した。しかし、1名については就労への意欲が向上しないまま、2年間の利用期間が満了となり、就労継続支援B型への利用に切り替えることとなった。(1名は転居のため退所)
- ② 利用者へは企業の情報を詳細に伝えるとともに、企業側には、利用者の長所や短所、配慮事項等を丁寧に伝えるよう努めた。また、企業の様子を直に体験できるよう現場実習を依頼した。今年度就職した4名は、この現場実習を経て就職に結びつくことができた。3月末現在4名とも企業側の評価が高く、勤務は継続している。

## (2) 就労プログラムの見直し

現在行っている訓練プログラムを近年の求人情報が多い業務内容に合わせるよう見直しを行い、より就職に結びつけられるプログラム内容に変更する。

### 【成果と課題】

ここ数年、事務系の求人が多いことから、事務の訓練プログラムを検討し、5月より伝票入力、ファイリング、電話対応のプログラムを新たに導入した。今年度2名が実施し、内1名は希望通り事務職へ就職が決まった。残り1名についても訓練の成果が徐々に表れている。その他、郵便仕分けの棚と廃文房具等を利用したピッキング訓練、職場対人技能トレーニング（JST）を訓練に取り入れたが、これについては、訓練導入後間もないことから、成果については次年度上半期に確認を行う予定である。

## (3) 就労定着支援の充実

就労定着支援事業所の指定を受け、本事業にて就労定着支援事業の充実を図る。支援方針はこれまで通り、本人の精神的な安定を重視しながら実施するが、就労支援センターへの引き継ぎの時期は6か月から3年6か月に変更となる。給付費収入の増額により長期の支援を行うための支援体制の整備や就労支援センターの協力を得ながらノウハウの蓄積を行いたい。

### 【成果と課題】

30年度の報酬改定に合わせて就労定着支援事業が創設され、就職後6か月を経過した利用者の定着支援を実施することとなった。これまで就労支援センターに引き継いでいたケースを定着支援事業に引き継ぐことになったが、ワークセンター夢の樹の場合、移行支援事業と定着支援事業は実質上一体的に行われており、却って長期間継続して支援が行えるという点でメリットがあったといえる。30年度は、利用者8名に対し、月1回の職場訪問や定期的な面談等を実施した。本人や企業からの相談に丁寧に対応することが出来たと考えており、全員就労を継続できている。

また、今年度ハローワークを介さずに直接企業から求職者の紹介依頼があった。定着率の高さと丁寧な定着支援の結果、企業から信頼を得られたものと考えている。

## (4) 長期就労者の状況把握

昨年度実施した開設以降の就労者の現況調査を継続し、毎年3月に実施することとした。調査結果によって支援が必要と考えられる方については就労支援センターと協力し、必要な支援を実施する。

### 【成果と課題】

平成20年度開設以降から30年度末までに就職した方は53名おり、その内就労支援センターへ引き継ぎ後1年以上経過した就職者が44名、就労定着支援事業で定着支援を行っている就職者が8名、当事業で定着支援を行っている就職者が1名である。就労支援センターに引き継ぎ後1年以上経過した方の現在の状況を聴取したところ、42名は就業中または障害福祉サービスの日中活動事業所を利用している。残りの2名に就労の意志があるかどうかの確認を行なったが、1名は就労の意志がなく、1名は就労継続支援A型事業所への通所を検討中とのことであった。

#### 引き継ぎ後1年以上経過した方の内訳

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| ・就業を継続している方            | 27名 |
| ・離職後に別の企業に就職した方        | 7名  |
| ・離職後に就労継続支援B型を利用している方  | 7名  |
| ・離職後に就労移行支援事業所を利用している方 | 1名  |
| ・在宅で過ごしている方            | 2名  |

(5) 就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントの実施

軽作業、漢字テスト、計算問題等のプログラムを実施し、作業能力、持続力、集中力また、コミュニケーション能力などの社会性についての評価を実施する。

【成果と課題】

就労継続支援B型事業利用希望者のアセスメントを7名実施した。軽作業や漢字テスト、計算問題を実施し、作業能力や持続性、また報告、連絡、相談等のコミュニケーション能力の評価を行った。評価結果は7名とも就労継続支援B型事業の利用が適当となった。

2) 人材育成

(1) リーダー候補者

- ①事業全般の把握と判断力の向上
- ②職員行動観察による適性や能力の把握とその活用のための手法の獲得
- ③地域の状況把握とネットワーク強化

【成果と課題】

候補者1名は、他の職員とのコミュニケーションも良く取れているほか、業務の改善策を積極的に提案するなど、現場においてリーダーとして役割を十分に果たしてきた。また、相談支援センターや相談支援事業所と良い関係を築いており、関係機関とのネットワークの構築についても着実に進めてきている。その他障害者施策及び経理の学習会に参加し、知識の習得に努めたほか、会計ソフトの入力、国保連請求、行政手続きなどの実務について実践の中で習得が進んだ。サービス推進費の申請報告や総合支援法の施設設置基準等に関する手続については次年度以降に取り組みになるが、これらの実務を通じて、事業管理の年間スケジュールの把握、財務諸表からの経営分析力向上を図り、経営判断力の向上につなげたい。

(2) 職業指導員、生活支援員

- ①相談支援のスキル向上
- ②業務標準化の実施
- ③ 職員間の連携強化  
(より良い支援の為に協力関係・相互干渉・情報共有・意見交換等)

【成果と課題】

相談支援における、支援者側の話し方、話の整理の仕方、聞き取る際の振る舞いなど、利用者個別のアプローチ方法について職員間で検討し、支援の統一を図った。また、事例検討を通し、職業訓練校の職員と相談支援技術等の意見交換を行った。全体的に経験年数とともに相談支援のスキル向上が見られ、業務の標準化、連携は概ね図られたといえる。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費収入の安定

収支均衡の1日平均利用者数7名以上を目標とし、以下の取組により利用者の確保を行う。

- ・近隣の市町村の就労系事業（主に就労継続支援B型事業所）、就労支援センター、ハローワーク等へ利用者募集を呼びかける。
- ・特別支援学校へ事業内容の説明を行い、移行支援事業所の理解促進を図る。
- ・バウムのステップアップの取組に参加し、移行支援事業対象者の発掘に取り組む。

【成果と課題】

収支均衡の1日平均利用者数を7名としていたが、平成30年度報酬改定により、その数を10名に引き上げることとなった。年度当初は利用者確保の取組みが不十分で、7月には1日平均利用者数が5.6人まで減少したが、7月から就労支援センター、特別支援学校、

相談支援事業所などを訪問し、募集を行った結果、24名の見学者が来所し、内15名が実習を行い、5名が新規利用に繋がった。バウムからのステップアップは1名となった。

3月末時点で利用者が10名となり、年度当初の見込みではマイナス280万であった当期資金収支差額は、145万の黒字収支に改善した。

(2) 就労定着支援事業の実施による給付費収入の増額

新設の就労定着支援事業の指定を受け、給付費収入の総額を図る。

【成果と課題】

前述の通り新設の就労定着支援事業は当初の見込とは異なり、別事業での開設となった。移行支援事業の給付費収入は減額となり、利用者確保の必要度が増した。(状況は前項に記載)

(3) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

年度を通して月次試算報告は規程通り行ない、予算も計画通りの執行を行った。しかし、上半期は経営分析を丁寧に行わず、利用者不足が経営に与える影響を把握し、その対策を迅速に実施することはできなかった。またこの点も法人からの指摘によるもので、主体的に経営を考える姿勢に欠けていた。この反省を踏まえ下半期は予算執行状況および年度の収支の見通しについて試算を丁寧に行った。

(4) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

- ① 未使用スペースの消灯等の節電は概ね実行できた。
- ② 消耗品の購入前に必ず在庫を確認し不必要な購入は防ぐことができた。
- ③ 印刷前の確認を行い無駄な印刷は行わなかった。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間  
(2) 開所時間 午前9時～午後5時  
(3) 年間延開所日数 244日間  
(4) 平均活動時間 8時間

9 利用状況

- 1) 利用者延人員 2,022人(前年度 1,800人)
- 2) 1日平均利用人員 8.3人(前年度 7.4人)
- 3) 体験実習者延人員 86人(前年度 31人)
- 4) 1日平均実習人員 0.4人(前年度 1.7人)
- 5) 実習者実人員 15人(前年度 8人)
- 6) 企業内実習者延人員 104人(前年度 140人)
- 7) 就労継続支援B型アセスメント利用人員 7人(前年度 2人)

10 利用者状況(平成31年3月31日現在)

- 1) 年齢  
20歳以上30歳未満 8名  
30歳以上40歳未満 2名

2) 障害の状況

愛の手帳4度	1名
精神障害者保健福祉手帳2級	3名
精神障害者保健福祉手帳3級	5名
身体障害者手帳3級	1名

3) 通所手段

交通機関利用	2名
徒歩等	8名

4) 居住状況

管内居住	9名	管外居住	1名
------	----	------	----

5) 性別

男性	7名	女性	3名
----	----	----	----

1.1 利用者工賃

平均工賃	1人	月額	:	9,278円	(前年度	10,398円)
		日給	:	541円	(前年度	607円)

1.2 就労者の状況・ステップアップの状況等

今年度就労者	・・・	4名	(内離職者0名)
今年度ステップアップ者	・・・	1名	(内就職者0名)

1.3 就労継続支援B型アセスメント実施状況

今年度アセスメント者	・・・	7名	(内就労継続支援B型適当者7名)
------------	-----	----	------------------

1.4 環境の整備

職員、利用者が毎日、室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.5 防災

災害時避難訓練を年2回、防災訓練を年1回実施した。